



昭和28年 内宮斎館前 創立者 佐佐木勝造大人命



発行所  
佐佐木奉公会

〒112-0002 東京都文京区小石川2丁目5番7号  
電話(03)3812-4278

## 新年のご挨拶を申し上げます

小石川大神宮宮司  
佐佐木 清有

あけましておめでとうございます。

平成二十七年乙未歳の新年を迎えて謹んで皇室の御榮と国家の隆盛をお祈り申し上げます。昨年は日本各地で自然災害が頻発、特に長野県御嶽山の噴火は耳に新しく、多くの死傷者が出された甚大な災害でありました。先ずは、本災害によつて被害をうけられた皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方やその御遺族にはお悔やみを申し上げます。

さて、当宮創立者佐佐木勝造大人命が北海道洞爺村に生誕して百二十年の節目を迎えたのは昨年九月二十七日であります。当日、多くの崇敬者の参列を得て「生誕百二十年祭」を斎行、今一度創立者の御志を明め二度目の還暦を祝しました。

伊勢の神宮の「遙宮」と讃え奉る当小石川大神宮は来年愈々創立五十年を迎えます。御祭神のますますのいやちこを願うため現在記念事業を計画し、漸次実施に向けて邁進しております。誠に恐縮至極に存じますが、御崇敬の皆様におかれましては、何卒創立五十周年の祝の旨御賛美を賜り、宜敷く御奉賛いただけますようお願い申し上げる次第です。

本年も皆様にとりまして幸多き佳き年であります事をお祈り申し上げ、年頭の御挨拶をいたします。

## 新年のご挨拶を申し上げます

小石川大神宮

創立者後継  
佐佐木 一

宮 権 権 宮 権  
佐佐木清有 宜 市川 晴一 神屋善四郎

同 権 権 宮 権  
同 宜 市川 晴一 笹野 博嗣

同 権 権 宮 権  
代 宜 市川 晴一 木村 光孝

責任役員  
崇敬会会长

五十嵐康雄

大賀 啓三

佐々木 巍

今井 敏義

佐佐木照仁

諷訪 あさ

小林 亘

清水 和雄

金子 豊

## 佐佐木勝造大人命生誕百二十年祭

去る九月二十七日午前十一時より小石川大神宮參集殿において、小石川大神宮創立者佐佐木勝造大人命生誕百二十年祭を斎行した。

定刻午前十一時より、斎主佐佐

木清有宮司以下祭員、創立者後継佐佐木一、責任役員総代木村光孝、崇敬会会长五十嵐康雄、総代今井敏義(代理)、同佐佐木照仁、同謹訪あさ、同小林亘他約七十名の

崇敬会員の参列をいただき、開式。祭典は先ず修祓、次に降靈の儀、献饌と進み、佐佐木宮司が祭詞を奏上、勝造大人数々の功績を讃え

偲び、志の繼承を誓ひ、皇室・國家の繁栄・崇敬会員をはじめ国民の安寧を祈念された。



百二十年祭

次に斎主・創立者後継の玉串奉奠に続き、参列者全員が玉串を奉りて拝礼。玉串奉奠の後、神饌

が撤せられ、昇靈の儀にて結び、祭典は滞り無く斎行された。

続いて、斎場の隣に設けられた直会会場に移り、直会の儀が執り行われた。直会は、先ず五十嵐康雄崇敬会会长に開式の辞をいただき、次に佐佐木一創立者後継による御挨拶、木村責任役員・佐佐木照仁総代よりそれぞれ御挨拶を頂戴、次に成澤廣修文京区長の御発声により献盃が行われ、歓談に入った。

歓談の途中、本祭典の参列を代表して衆議院議員辻清人氏に御挨拶をいただき、勝造大人躍進の企業である丸勝佐佐木土木株式会社に御父君がお勤めであった岩手県陸前高田市在の西條保夫氏より、勝造大人生前のエピソードを添えて御挨拶を頂戴した。

歓談に華が咲き盛り上がり、宮司佐佐木清有から閉会の辞を申し上げ、盛大裡に全ての式を執り納めた。

なお、当日の式次第と勝造大人の略歴を左に載せる。

参考されたい。

## 勝造翁四十一年祭

去る八月二十九日午前十一時より佐佐木ビル二階会議室において、創立者佐佐木勝造大人命四十一年祭を斎行した。

直会は、先ず五十一時より、斎主佐佐木一創立者後継による御挨拶、

木村責任役員・佐佐木照仁総代よりそれぞれ御挨拶を頂戴、次に成澤廣修文京区長の御発声により献盃が行われ、歓談に入った。

歓談の途中、本祭典の参列を代

勝造翁四十一年祭  
斎場所定  
主佐佐木  
清有宮司  
以下祭員  
斎場所定  
の自座に  
立ち並び、  
創立者後  
継佐佐木  
一氏、佐佐木奉公会社員一同の参

列を得て、開式。祭典は先ず修祓、次に降靈の儀、献饌と進み、佐佐木宮司が祭詞を奏上、勝造大人の鎮魂と国家の安寧と發展が祈念された。次に斎主・創立者後継の玉串奉奠に続き、参列者全員が玉串を奉りて拝礼。玉串奉奠の後、神饌

が撤せられ、昇靈の儀が続き、祭典は滞り無く斎行さ

れた。

勝造大人逝去後は、次男清が初代創立者後継に就任、更に清の長男一が創立者後継を継承、そして一の長男清有は小石川大神宮宮司を拝命している。

神宮奉贊と小石川大神宮の護持发展に努める勝造大人の燃えるような志は今なお嫡子嫡孫に脈々と受け継がれている。

一角を使用し、一同席につき直会の儀を執り行つた。直会は、創立者後継佐佐木一氏より挨拶と乾杯があり、参列者一同慎んで勝造大人の遺徳を慎んで偲んだ。

勝造大人は、新宿中村屋のかりんとうが大の好物であった。

七台の神饌を靈前にお供へしたが、その内の一台は例年かりんとうである。平瓶と呼ばれる祭器具の皿の上には文字通り山のようにかりんとうは盛られた。

生前の勝造大人を知る人は、「兎に角勝造大人は器量も人柄も好みも全て大きかつた」という。

山盛りのかりんとうに勝造大人お喜びのことと筆者は拝察する。神靈をもてなすことが神祭りの本質という、勝造大人の鎮魂を祈つてやまない。

勝造大人逝去後は、次男清が初代創立者後継に就任、更に清の長男一が創立者後継を継承、そして一の長男清有は小石川大神宮宮司を拝命している。

神宮奉贊と小石川大神宮の護持发展に努める勝造大人の燃えるような志は今なお嫡子嫡孫に脈々と受け継がれている。

# 生誕百二十年祭次第

先修祓

此の間参列者磬折

次降靈之儀

此の間奏楽 参列者磬折

次献饌

此の間奏樂

次祭詞奏上

此の間参列者磬折

次齋主玉串を奉りて拝礼

祭員列拝

次玉串を奉りて拝礼

此の間奏樂

次撤饌

此の間奏樂

次昇靈之儀

此の間奏樂 参列者磬折

次齋主以下祭員退出

小野雅樂会 奏樂

# 直会次第

一、開会の辞

五十嵐康雄

一、小石川大神宮創立者後継挨拶

(小石川大神宮崇敬会会長)

一、ご挨拶

木村光孝

(小石川大神宮責任役員)

佐佐木照仁

佐佐木廣修

(小石川大神宮總代)

成澤廣修

(文京区長)

一、閉会の辞

佐佐木清有

(小石川大神宮宮司)

# 佐佐木勝造大人命 略歴

(皇紀2675年) 平成27年新年号(西暦2015年) (4)

第388号

奉公会時報

明治二十七年九月二十七日 北海道虻田郡洞爺村字泉に出生  
大正九年八月 樺太大泊に渡る（九勝佐佐木組設立）  
昭和二年四月 大泊商工会議所議員→終戦まで  
昭和九年十月 樺太拓殖計画期成同盟評議員→終戦まで  
昭和十二年 大泊消防組組頭  
昭和十四年七月 大泊警防団長→終戦まで  
昭和二十年五月 樺太全島總警防団長  
昭和二十年八月 北海道札幌市に引揚  
昭和二十七年十一月 伊勢神宮崇敬者總代  
(昭和四十八年八月逝去まで)

昭和二十八年十月 第五十九回伊勢神宮式年遷宮に神宮崇敬者總代として奉仕  
昭和三十八年三月 財團法人佐佐木奉公会設立（理事長）  
昭和三十八年六月 佐佐木ビル建設に着工  
第三期工事は昭和四十一年三月竣工  
昭和四十年四月二十一日 第六十回神宮式年遷宮委員会委員に委嘱される  
昭和四十一年二月 小石川大神宮創立  
昭和四十四年三月 奉公会時報発行  
昭和四十八年八月三十一日 帰幽 八十歳  
昭和四十八年八月三十一日付 従五位勲四等に叙せられ  
瑞宝章を授けられる



新嘗祭



去る平成二十六年十一月二十三日、秋の五穀豊穣を神に感謝する「新嘗祭」が大祭式を以て斎行された。

定刻午前十一時より、斎主佐佐木清有宮司以下祭員、創立者後継佐佐木一、責任役員総代木村光孝、崇敬会会长五十嵐康雄、総代佐々木巖、同今井敏義（代理）、同佐佐木照仁、同諒訪あさ、同小林亘、同清水和雄（以上敬称略）及び崇敬会会員八十四名参列の下開式。

祭典は先ず修祓、宮司一拝、次に開扉、御扉の開く音が清々しく

神殿に鳴り響く。次いで献饌と進み、佐佐木宮司が祝詞を奏上。本

年の収穫を神に感謝し、国家の繁栄と崇敬会員をはじめ國民の平安

を祈念した。斎主・創立者後継の玉串奉奠に続き、参列者全員が玉串拝礼を行つた。次に神饌が徹せられ、御扉閉扉、宮司一拝で神殿での祭典が滞りなく終了した。

続いて参集殿に移り直会の儀が盛大に執り行われた。

直会は、国歌斎唱に始まり、佐

木宮司に合わせ神宮遙拝の後、宮司より、新嘗祭参列御札の御挨拶を申し上げる。続いてご来賓ご

祝辞として、衆議院議員辻清人氏、文京区議会議員白石英行氏より頂戴した。次に木村光孝責任役員

総代のご発声により、新嘗祭の神酒（白酒）にて乾杯が行われ、約

一時間半歓談した。

中締めを富坂二丁目町会会長萬立幹夫氏の御発声で行われ、盛大な直会の儀を閉じた。

尚、新嘗祭斎行に当たり、北海道・



新嘗祭

この「イセヒカリ」は平成十三年より神社庁を通して種糲をいただき、当社崇敬会員で篤農家、染谷昇氏の御協力を得て、当社の神饌田としてイセヒカリの栽培に努めて來た。収穫量も増え、今年も新嘗祭に神前に御供えし、直会のおにぎりとして召し上がつて戴き、更に祭儀終了後、御神饌米・撒下神饌野菜と共に参列者皆様に配られた。

### 平成二十六年新嘗祭初穂料奉納者

### 平成二十六年新嘗祭御神酒等奉納者

佐佐木一、木村光孝、五十嵐康雄、佐々木巖、今井敏義、佐佐木照仁、諒訪あさ、小林亘、金子豊、清水和雄、赤坂仁、阿部常夫、㈱ABO、五十嵐猛、石橋秀明、石原愛、石原学、伊藤泰子、井上有本、上野深恵子、内田久雄、内海邦夫、友和夫、大塙祥治、大山寿々枝、梅原晃、及川秀夫、大井信義、大加藤舞、金川秀風、金子實、川喜

田淳一、川喜田裕司、岸晶美、岸本玲子、北島直樹、北本建夫、木村光子、國澤佳世、倉田淳一、小島良一、小林達二、小松利光、近藤健吾、齋藤包土、佐佐木照尚、佐佐木岸子、佐佐木千恵子、佐佐木美代子、佐藤花菜、佐藤優花、澤頭克子、三瓶真也、残間斎、白石敏子、鈴木義廣、関根修一、相馬榮、高橋みなみ、鶴岡久子、寺西貴美子、寺西悠貴、寺本文子、寺本一郎、中川雅雄、仲佐祐行、仲森友英、成澤恵美、新垣清一、日向寺好子、福興正弘、藤田哲朗、藤原瑛月名、藤原歌月名、舛田慶輝、松永秀三、萬立幹夫、宮沢洋子、矢島卓、山崎高行、山元顯太郎、吉村勝弘、渡邊訓惟

佐佐木一、小石川大神宮崇敬会、佐佐木奉公会、㈱ネクスト、佐々木巖、栗飯原正、アイリーン・アドラー、㈱赤井米店赤井英俊、内海邦夫、染谷昇、田制四郎、一般社団法人情報科学技術協会会長時実象一、みのりや渡辺米店、有限会社福宝㈱田慶輝、富坂警察署署長山田健二、花の里鎗田重子

## 平成二十六年 新嘗祭 宮司挨拶

本日は大変御忙しい中、当宮新嘗祭に崇敬会員の皆様多数御参列を賜り、大祭式をもつて厳粛に諸儀滞りなく祭典を執り行う事が出来ました事、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

本日神饌米としてお供えいたしましたイセヒカリは、本年も春日部市の篤農家染谷昇様の御協力を頂き、五月十一日にお田植祭を行いました以降、夏の暑さを心配致しましたが、成育も順調に、九月二十八日に拔穂祭を斎行し収穫いたお米でございます。

また拔穂祭で刈りました初穂は、十月十五日より十七日の間斎行されました、伊勢神宮、内宮外宮の神嘗祭にも例年通り「懸税かけちから」として御奉納致しました。御参列の皆様には、神職が奉製しました袋入りの初穂を一箱(ひとつね)撤下神饌と共にお持ち帰り頂きたいと思います。

本日の新嘗祭には、総代の佐々木巖様からは糯米、京都の赤井米店様、新潟の渡辺米店様からは、コシヒカリを、山形の田制様から

は、はえぬきを、北海道帶広の栗飯原正様からは、馬鈴薯、小豆をご奉納頂いて居ります。その他、ご奉納頂きました。

本日、皆様のお席の前には新嘗の濁り酒とともに、伊勢の神宮で生まれましたイセヒカリのお米で炊きましたお握りをご用意致しました。

ご存じの通り新嘗祭とはその年の実りに感謝するお祭りとして古くから行われている大切なお祭りです。今日では農業以外でも産業の発展に感謝し、神々に更なるご加護を祈るお祭りとして知らせております。畏くとも宮中においてもこの新嘗祭は行われ、陛下御自ら祭祀に臨まれ、五穀の豊穣と国家国民の安寧を祈られると漏れ聞いております。

### 新総代



**金子豊様**

昭和23年2月生  
東京都中央区  
(有)金子順商店  
代表取締役

この度、金子豊様・清水和雄様が七月七日付で  
小石川大神宮総代に就任されました。



**清水和雄様**

昭和27年5月生  
東京都文京区  
(株)土金  
代表取締役社長

の御治定により定められ、本年十月六日に月読宮と月読荒御魂宮、十月十日に伊佐奈岐宮と伊佐奈弥宮にて執り行われました。引き続き十一月二十八日には伊雑宮の遷

御があり、順次各別宮で行われます。また御遷宮が終えられた古いお宮は各地方の神社へお別ちになります。小石川大神宮本殿前の鳥居を小石川大神宮本殿前の鳥居としてお受けできました。これも偏に

小石川大神宮崇敬者皆様の御助力により、神宮様にその功績を認められ、お受けできたものだと思いります。今後も皆様の御助力の元、神宮様の御遷宮を支え、小石川大神宮の御神徳が一層高いものとなるよう邁進していく次第です。ご協力の程宜しくお願ひ致します。

尚恒例でございます、平成二十七年一月十七、十八日に実施致し

ます小石川大神宮神崇敬会神宮初詣旅行のご案内を、本日の記念品に入れて居りますので、是非皆様一緒にご参加いただけますようご奉納頂いて居ります。その他、ご奉納頂きました。

本年も残すところ後一ヶ月余りとなりました。神社の祭典諸行事も十二月八日の第六十回伊勢神宮新穀感謝祭と十二月三十一日の大祓式また除夜祭を残すのみとなりました。諸事滞りなく努めて参る所存でございます。

伊勢の神宮で生まれましたイセヒカリを、本日の祭典に御供へ致しましたお野菜をご家族皆さまでお召し上がり、大神様のご加護を戴き、感謝の心を持つて愈々益々健やかに御過ごしなさいますよう御祈念申し上げ、本日の新嘗祭の宮司の挨拶と致します。

有難うございました。



## 中央大学高等学校

東京都文京区春日  
昭和3年創立  
質実剛健、家族的情味の下、  
心身ともに磨き、  
粘り強くたくましい人物の  
育成を目指す。

もう一つ、  
よく話題に上  
るのが、雨の  
降り方です。  
夕立といふと  
涼しげであり、  
「一雨來てほ  
しい。」とい  
ふ会話も懷か

生きているとしか言えませんが、  
嘆くだけでは始まりません。  
古来、日本に住んできた祖先は  
今以上の天変地異をぐぐり抜けて  
生きています。日本という土地に住  
む以上、大地震を始めとする大災  
害を引き受けざるを得ません。そ  
うした荒ぶる自然を畏敬し、鎮め  
ることで生きてきた先人の知恵を  
受け継ぐことがますます必要になつ

ていると感じています。「減災」  
は、日本人だからこそ使える言葉  
ではないかと言われますが、本当  
にそうだと思います。自然は統御  
できないことを前提とし、被害を  
しくはならず、かえって蒸し暑さ  
たところは、熱中症への警戒もなさ  
れていたのでしようが、夏の炎天  
下や蒸し暑い体育館でも運動を行  
い、そこで救急車で搬送される事  
態などは記憶にありません。現在  
は、あちこちで熱中症関連の事故  
報道がなされ、私たち教員は、と  
にかく水分補給・休憩の徹底をは  
かり、生徒自身への注意喚起を何  
度も行います。他の学校の先生方  
も行つてはいるのですが、それでも  
事故が起きてしまうのは夏の気象  
が殺人的にまで厳しくなつていて  
からと考えざ  
るを得ません。

乙未の新春を迎えて、皆様穏やか  
にお過ごしのこととお慶び申し上げ  
ます。

今となつては、暑いと言つてい  
た時が遠く感じられます。昨夏  
も異常気象という語があふれまし  
た。最高気温が三十四、五度とな  
るのは当たり前であり、三十度だ  
と涼しく感じるほどです。もはや  
異常気象ではなく、通常となつて  
ことは、熱中症への意識が高くなつ  
てしまつたようです。

学校現場においてつくづく感じる  
ことは、熱中症への意識が高くなつ  
たということです。私が高校生だつ  
た時は、熱中症への警戒もなさ  
れていたのでしようが、夏の炎天  
下や蒸し暑い体育館でも運動を行  
い、そこで救急車で搬送される事  
態などは記憶にありません。現在  
は、あちこちで熱中症関連の事故  
報道がなされ、私たち教員は、と  
にかく水分補給・休憩の徹底をは  
かり、生徒自身への注意喚起を何  
度も行います。他の学校の先生方  
も行つてはいるのですが、それでも  
事故が起きてしまうのは夏の気象  
が殺人的にまで厳しくなつていて  
からと考えざ  
るを得ません。

## 寄稿 身近なとこうがら

中央大学高等学校 教諭  
**仲森 友英**

しく感じられます。「一雨…」とい  
いおうものなら、今や土砂降りの  
集中豪雨。夕立は熱帯のスコール  
と化してしまいました。おまけに  
それほどの激しい雨が降つても涼  
しくはならず、かえって蒸し暑さ  
たという 것입니다。私が高校生だつ  
たころは、熱中症への警戒もなさ  
れていたのでしようが、夏の炎天  
下や蒸し暑い体育館でも運動を行  
い、そこで救急車で搬送される事  
態などは記憶にありません。現在  
は、あちこちで熱中症関連の事故  
報道がなされ、私たち教員は、と  
にかく水分補給・休憩の徹底をは  
かり、生徒自身への注意喚起を何  
度も行います。他の学校の先生方  
も行つてはいるのですが、それでも  
事故が起きてしまうのは夏の気象  
が殺人的にまで厳しくなつていて  
からと考えざ  
るを得ません。

以前とは異なる地球環境になり  
つつある現在、私個人で何ができる  
のかを考えた時、温暖化の防止  
を訴えることよりも、日常を丁寧  
に生きることだと思います。例え  
ば、無駄遣いをしない、ごみを減  
らす、道端に落ちているごみはで  
きる限り拾う、といったことであ  
り、生徒に対しても、もつたいた  
いという意識を持たせることや掃  
除をこまめにしましょと説諭す  
ることです。

世の中は、グローバル一色です  
が、地球が狭くなつていて今だから  
こそ、身の丈にあつた行動とは  
何かを考え、自分の周囲を整える  
という当たり前のことがより一層  
大切になると思つています。

最後ではございますが、皆様に  
とつてよき一年となりますようご  
祈念申し上げます。



祝祭日には必ず国旗を掲げましょ

初日午前八時前、明治神宮会館にスタッフは集合し、担当班ごとに別れて、作業内容の確認をおこなつた。私は二日間通してプログラム班の班員の役務を与えられ、プログラムが円滑に進むよう、会場の設営等の業務を行つた。

木々の葉の甘いにおいと爽やかな花の香りがほのかにしみこんでいる夏、八月四日から五日にかけて明治神宮を中心に開催の「東京都神道青年会創立六十五周年記念事業である第十六回なつやすみ子供神社体験学習『感謝の気持ちを育てよう』」にスタッフとして参加した。

揚後、みそぎ体験を行う。その後靖國神社にて、神社とは何かといふテーマで遊就館を見学、明治神宮にもどり雅楽を鑑賞、正式参拝を一同そろつて行い閉講式を迎えた。

市川晴一



お清めからスタート。手取り足取り宮司さんから直接指導を受けま

子供たちにとつて普段身近でない神社を知る良い機会に本事業はなつたようで、後頂戴したデータは高い満足度を誇っていた。

解散した。

会演劇班による感謝の念を題材にした朗読劇を鑑賞、感謝の手紙の作成、夜間参拝をして初日を終えた。翌日五時半に起床し、国旗掲揚後、みそぎ体験を行う。その後、靖國神社にて、神社とは何かというテーマで遊就館を見学、明治神宮にもどり雅楽を鑑賞、正式参拝を一同そろって行い閉講式を迎えた。

小石川大神宮では、児童教育を目的とした、立志舎プロジェクトの活動場所確保のために、活動の際社領の一部を提供しており、去る八月三十日に第一回目の活動がありました。

その時の様子を立志舎プロジェクトの発起人、馬場しづ子氏に寄稿いただきました。

ぜひご一読願います。

を動かし体感する試みでした。  
今後も、“身につける”動的な  
授業を企画していきたいと思いま  
すので、たくさんの親御様、お子  
様のご参加をお待ちします。

(発起人  
馬場しづ子)

## 「週末学び塾」の試み

新学期の始まりに先立つ八月三日（日）、小石川大神宮参集殿において、立志舎のプロジェクトの一「週末学び塾」が試験開催されました。日曜日の早朝八時四十分、親御さんに連れられた小学生三年と一年生のご兄弟は、宮司さんの出迎えを受けた後、

は、神道の精神を伝えていくうえでも欠かせない大切なことと思いますので、今後も折に触れ、是非お話ををして頂きたいと思います。お行儀の授業では、専門講師による、返事の仕方から靴の脱ぎ方揃え方、椅子に座る正しい姿勢などを、親御さん参加で、実際に身体を動かし体感する試みでした。

した。準備が整つたところで神殿に上がり、開校奉告祭へ参加。ここでは市川晴一権禰による正式参拝の逐次の動作誘導で、神殿に上がるのが今回初めて、というお子様達もしつかりと玉串奉納を済ませました。この日の參集殿での講義は、権禰宜講師による「お米」のお話でした。日本国の大文化の源流、稻作文化とその意味を小学低学年の生徒に教えていくこと

# 職員だより

半袖の衣服で過ごさせていたのが、いつの間にか七分袖になり最近では夜間はもっぱら手まですっぽりおさまる長袖を腕に通さねば過ごせなくなり、「春過ぎて・・・」ならぬ、「夏過ぎて秋来にけらし」と感じております。

私が当宮へ着任してから、早半年が経過し、日々一所懸命生活に奉務につくしておりますが、まだ未熟なもので、皆様方には迷惑をおかけしておりますとお詫び申し上げ、また日々浮かび生じる反省点を活かし頑張りたく考える次第です。

さて、此の半年で自身なりに研鑽の意をこめ、当宮について学習してまいりました。そのうちの一つである当宮の神社建築について今回ご説明したく思います。

古来神社には特別に設けられた建築はなく、お祭りを行う際に、神々が臨時に降りてくる場所を神域として設定し、それを囲い特別な斎場とした。それが次第に、常



に神々のお鎮まりを賜るために建物を設けるようになり、現在の神社建築になつたと考えられています。

各神社の創建年代に合わせ多様な構成が伝存し、特に御祭神がお鎮まりになる「本殿」には宗義的な意味合いも絡まり変化に富み、現在では各特色ごとに「○○造」という呼称がなされている。

では、そのまとめられた建築技法に照らし合わせてみると当社の社殿は、「神明造」と呼ばれる建築だと考えられる。

神明造は『神道事典』（國學院大學日本文化研究所）によると伊勢神宮とその周辺、（中略）伊勢信仰の盛んな地、および明治維新後は全国的に建設された本殿形式である」とされ「切妻造、平入り

で、屋根は反りがなく、直線的に構成され、棟持柱、千木、鰹木をもち、白木である」と特色があるとされる。「切妻造」とは屋根の構造が上部から見た場合本を伏せたような山形の形状の造りを差し

「平入り」は上述の伏せた本の側面にあたる部分である「平」から建造物に入る様式を言う。外觀から判別は難しいが、社殿の内部に入つてみれば切妻・平入ということが容易に理解できる。

そして屋根の反り・直線的なデザイン・棟持柱・千木・鰹木の存在も確認できる。

例外なのは、外部をコンクリートで覆い千木や鰹木、そして屋根を銅板で覆っている点だろう。屋根が茅葺き、外周を廻る高欄

がある等伊勢の神宮が備え持つ構造と比べると多少異なりはあるが、神宮の御分靈を奉斎する神社として非常に意識して建造された点が観察から伺える。

各種御祈祷 受付けております。

- ・初宮詣
- ・七五三詣
- ・学業成就
- ・家内安全
- ・病気平癒
- ・厄除祈願
- ・交通安全
- ・商売繁盛
- ・社運隆昌
- ・身体健勝
- ・結婚式
- ・結婚奉告祭

（権禰宜 市川 晴二）

なお、創立十五年を祝し刊行された『小石川大神宮略記』の（当時）神宮補宜であった大崎千畝氏寄稿文「小石川大神宮奉建に関する覚書」によると「小石川大神宮別大麻授与式祝詞（中略）神宮司庁營繕課長技師山内泰明の設計図

ため、この設計図面がどこから今までを指しているのかはわからぬ、しかしながら神明造の文字からするに本殿の設計はこの山内泰明氏に間違いあるまい。

そして平成六年には創立三十周年を記念し、神宮の遷宮古材を拝領、御扉と鰹木、そして拝殿前鳥居に古材は使用されている。

以上、創立の由縁もさることながら、物質的にも伊勢の神宮との結びつきが強いこと改めて理解される。

（中略）神宮司庁營繕課長技師山内泰明の設計図

の参考可能な資料が非常に少ない

詳しいことや、ご不明な点は

社務所までお問い合わせください。

小石川大神宮社務所

電話〇三一三八一一四六八一

## 初代創立者後継 佐佐木清大人命十五年祭

九月二十九日午前十一時より佐佐木ビル二階会議室において初代創立者後継佐佐木清大人命十五年祭を斎行した。

定刻午前十一時より、斎主佐佐木清有宮司以下祭員、創立者後継佐佐木一、佐佐木奉公会社員一同が参列して、開式された。祭典は先ず修祓、降靈の儀、献饌、宮司による祭詞奏上、玉串奉奠、撒饌、昇靈の儀と進み、続いて、直会の儀が行われ、祭典は恙無く斎行された。

清大人は、創立者佐佐木勝造大人次男で北海道虻田郡にて生誕。初代創立者後継として長らく敬神崇祖の真心を軸に国家と神社界発展の為に心身を没入、佐佐木奉公会、小石川大神宮をよく導くが、平成十一年九月二十九日に逝去された。



## 神社総代会旅行

天高く馬肥ゆる秋の十月三日の午前七時、東京都神社庁文京支部

島市に鎮座する三島大社へ正式参拝の研修旅行に出発しました。



三島大社本殿前にて

こ前（文京区向丘二丁目付近）、駒込六丁目付近）、次に割烹かね園ラクーア前（文京区春日一丁目付近）に一同、最寄りの場所に集合、小石川大神宮一行

当日七時に六義園前（文京区本駒込六丁目付近）、次

に割烹かね園ラクーア前（文京区春日一丁目付近）に一同、最寄りの場所に集合、小石川大神宮一行

は後楽園ラクーア前よりバスに乗車した。なお、当日は小石川大神宮からは、宮司佐佐木清有、木村光孝文京区神社総代会副会長（当宮責任役員総代）、五十嵐康雄崇敬会長、小林亘総代、南栄理子崇敬会員、権禰宜市川晴一が参加しました。

東京を出発した総代会一行は、十時半に三島大社到着、三島大社職員様に説明と接遇を受け、本殿へ移動し、正式参拝。春日規子文京区支部長、木村文京区神社総代会副会長が代表となり、玉串拝礼を行つた。

正式参拝後、三島大社宝物館を見学し、十一時半より割烹貞竹（三島市本町六丁目）にて、総会を開催。

総会後、同店にて昼食懇親会を開催、名物のしゃぶ膳を味わつた。

午後、沼津ぐるめ街道の駅にて地場産の海産物などを楽しみ、富士見市鎮座の富士山本宮浅間大社に向かい、浅間大社では自由参拝を行い、帰路につく。



拔穂祭

## 拔穂祭

九月二十八日午前十時二十分より、秋晴れの晴天の下、埼玉県春日部市の染谷農園神饌田前にて小石川大神宮創立者後継佐佐木一・宮司佐佐木清有・総代佐佐木照仁氏をはじめ総勢三十名ほどの稻刈り奉仕者を得て、小石川大神宮禰宜神屋善四郎斎主のもと拔穂祭が斎行された。

※ 「懸税とは」  
神前に供される初物の稻穂などの供物を茎を伴つたまま神垣などに吊るし懸け奉つたものを言う。供物奉獻の古代の形で、神々へ収穫の感謝を表した。当初は穀物に限定されていたが、後に穀束だけでなく金錢など供物全般に拡大され、現在の「初穂料」に通するのである。

刈り取られた稻穂は「懸税（かけちから）」として神宮神嘗祭に、また当宮新嘗祭神饌に奉獻される。

祭典後、染谷農園染谷高実氏より稻刈りの説明をいただき、さつそく鎌を手にして黄金色の稻穂の中に入り、稻刈を開始、老いも若きも幼子も和やかに稻刈り奉仕を行つた。

本年も神宮より譲与された「イセヒカリ」の種糲を染谷農園の染谷昇氏の御協力を得て、五月十一日に御田植祭の後田植を行つて以来、夏の猛暑にも何度かの台風にも順調に成育してこの日を迎えた。

午後三時より節分祭を執り行ないます。  
引き続き三時半頃より境内にて追儺撒豆式（豆まき）を行ないます。是非、ご参列下さいませ。



## 節分祭の御案内

# 平成27年新春初詣旅行のご案内

## 主催:小石川大神宮崇敬会

拝啓 晩秋の候会員の皆様方にはお変りなくお過ごしの御事と存じ上げます。

小石川大神宮崇敬会では恒例の伊勢神宮並びに京都伏見稻荷大社の初詣旅行を例年通り実施致します。

全国の神社の総氏神として国民の崇敬の念篤い皇大神宮(内宮)、また五穀豊饒の神豊受大神宮(外宮)では御垣内参拝の栄に浴し、昼食後、神宮前のおかげ横丁を散策します。二日目は京都の伏見稻荷大社、大阪の住吉大社を正式参拝し、住吉にて難波の食を味わう旅行を企画致しました。

会員の皆様が一人でも多く大神様の御加護を頂き、来るべき平成27年がより一層佳き年になりますよう、ふるって御参加の程お願い申し上げます。

敬具

**実施年月日** 平成27年1月17日(土)~18日(日)

**集合時間** 平成27年1月17日(土) 午前6時20分(時間厳守)

**集合場所** 東京駅丸の内南口待合室

**参加人員** 60名(満員になり次第締め切らせていただきます)

**参加資格** 小石川大神宮崇敬会会員及びその家族

**参加費用** 65,000円

(神宮神楽料、伏見稻荷大社・住吉大社玉串料、懇親会費を含む一切の費用)

御1人で1室を御希望の方は、追加料金として5,000円が別途かかります。

(註) 1月10日以降のお取りやめの方は、キャンセル料を頂きますので予めご了承願います。

**宿泊場所** ホテル平安の森京都

**申込方法** 別紙申込用紙に住所・氏名等を明記の上、社務所又は世話人を通じてお申込みください。

**特記** 伊勢神宮では御垣内参拝、伏見稻荷大社・住吉大社では正式参拝を致しますので、男性は必ず上着ネクタイを着用いただき、女性はこれに準じた服装でご参拝願います。  
御垣内・神楽殿及び正式参拝の折は、携帯電話は必ず切ってください。

**世話人** 佐佐木一・木村光孝・五十嵐康雄・大賀啓三・佐々木巖・今井敏義  
佐佐木照仁・諏訪あさ・小林亘・金子豊・清水和雄

日次	月日	行程	宿泊地	食事
1 1/17 (土)		6:50 のぞみ7号 東京駅 ----- 品川駅 ----- 新横浜駅 ----- 名古屋駅 6:57 8:50 7:09 8:34 近鉄名古屋駅 ----- 宇治山田駅 10:30 10:13 14:25 伊勢神宮（外宮・内宮） 神宮会館（昼食） 13:25 15:15 17:05 おかげ横丁（観光） 草津PA ホテル平安の森京都 14:25 16:50 17:35	ホテル 平安の森京都 ご宴会 19:00~	朝 昼 夕
2 1/18 (日)		8:30 ホテル平安の森京都 伏見稻荷大社 住吉大社 8:50 10:30 12:00 14:30 15:50 のぞみ238号 住吉大社吉祥殿（昼食） 新大阪駅 ----- 東京駅 15:20 18:23		朝 昼 一

## ★宿泊箇所

地区	宿泊箇所	御案内
京都市	ホテル平安の森京都	住所 京都府京都市左京区岡崎東天王町51 電話番号 075-761-3130

[ご宿泊の箇所御案内]

### ホテル平安の森京都



周辺には、平安神宮、金戒光明寺、紅葉で有名な真如堂永觀堂南禪寺、若王子神社から法然院、銀閣寺までを続く疎水沿いの哲学の道等があり、古都の風情を満喫して頂けます。団体グループ、ご家族様には、大・中・小のご宴会場をご予約頂けます。

ホテルには、珍しく枯山水の坪庭を眺めながらの大浴場でのご入浴を楽しんで頂き、お食事は季節の食材を使用した京会席をお召し上がり下さい。

## 伏見稻荷大社

伏見稻荷大社（ふしみいなりたいしゃ）は京都市伏見区にある神社です。

式内社（しきないしゃ）、二十二社に連ねる古社。

旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁に属さない単立神社です。

稻荷山の麓に本殿があり、稻荷山全体を神域とします。

商売繁盛、五穀豊穣の神として有名で、全国で約3万社を超えるお稻荷さんの総本宮です。

初詣では近畿地方の社寺で最多の参拝者を集めます。

本殿(重要文化財)は、明応8年(1499)再興の檜皮葺きで、

本殿背後にいる鳥居のトンネルをくぐれば稻荷山への登り口である奥社奉拝所があります。

高さ233mの山には、至る所にお塚があり、

それを巡拝する「お山めぐり」は約4km、2時間ほどかかります。

## 住吉大社

### 住吉大社のあらまし

古くは摂津国（せつつのくに=大阪府北西部と兵庫県南東部を占める旧国名）の中でも、由緒が深く、信仰が篤い神社として、「一の宮」という社格がつけられ、人々に親しまれてきました。昭和21年までは官幣大社であり、全国約2300社余の住吉神社の総本社でもあります。

「日本書紀」や「古事記」の神代の巻での言い伝え伊邪那岐命（いざなぎのみこと）は、火神の出産で亡くなられた妻・伊邪那美命（いざなみのみこと）を追い求め、黄泉の国（死者の世界）に行きますが、妻を連れて戻ってくるという望みを達することができます、逆にケガレを受けてしまいます。そヶガレを清めるために海に入って禊祓いしたとき、住吉大神である底筒男命（そこつのおのみこと）、中筒男命（なかつのおのみこと）、表筒男命（うわづつのおのみこと）が生まれました。

### 御鎮座の由緒

第十四代仲哀天皇の妃である神功皇后（じんぐうこうごう）の新羅遠征（三韓遠征）と深い関わりを持っております。神功皇后は、住吉大神のお力をいただき、たちまちこの凱旋の途中、住吉大神のお告げによって、この住吉の

### 御神徳（ごしんとく）※神様の御力のことです

現在では神々のご誕生や神社創建の由緒等により

- ・お祓いの神様
- ・航海安全の神様
- ・和歌の神様
- ・農耕・産業の神様
- ・武の神様
- ・相撲の神様

として広く御神徳の崇敬を集めています。

**題名 千支末の絵画奉納**



小石川大神宮の参道に、小石川大神宮創立者後継佐佐木一氏の母堂佐佐木美代子様が描かれた本年の干支である未の日本画が奉納されました。此の奉納は、平成十七年の干支酉からはじまり、今回で十作目になります。皆様、小石川大神宮初詣の際是非ご覧戴けますようご案内申し上げます。

尚、本年も当宮干支絵馬は、佐木美代子様が描かれた羊の絵画を基にして奉製致しました。こちらも併せてご鑑賞、また願いを込めて絵馬掛けに懸けていただければ幸いでございます。

去る十一月十一日定刻の午前七時、小石川大神宮崇敬会の一行三十名を乗せた観光バスは久能山東照宮へ出発した。首都高代官町ICより東名高速道路を通り、清水ICで首都高を降りて、久能山東照宮へ向かつた。

定刻十時半、久能山東照宮の参道入口に到着。久能山東照宮には名物の一・二・五・九段の石段がある。過半数の参加者は久能山の山下にてバスを降り、海拔約200mの石段を登つた。山頂に到着した一同は別の参拝ルートである日本平ロープウェイの到着を待ち、合流後本殿へ向かつた。本殿に昇殿後、参加者一同威儀を正し、久能山東照宮神職の開式の挨拶を受け、正式参拝を行つた。正式参拝後、久能山東照宮宮司落合偉洲様より来宮の挨拶と講話を賜る。御本殿を退下後、更に四十段上がつた先にある山頂にある御廟所（東照宮御祭神徳川家康公の墓所）を落合宮司のご先導により拝礼、一同揃つて集合写真を撮影した。その後、

津までのびる駿河湾を上空から眺め、久能山とは地続きの山脈である。翌日平へ渡る。渡つた先の日本平ロープウェイ日本平駅舎よりバスに乗車、富山食場所の割烹富海亭に向かう。到着後、エビやしらすなどの名物の駿河湾の幸を味わつた。昼食後は、世界遺産三保の松原に移動し、神の道を歩き海岸へ出て、集会写真を撮影した。



再びバスに乗り込み、国道一五〇号線を清水湾沿いに進み、清水港市場である清水河岸の市にて買物をする。スに乗車、バスは再び清水ICから高速道路を進み、一路東京へ向う。途中渋滞に巻き込まれ、若干遅れたものの十九時小石川に到着。バスを下車後一同解散、無事に第八回のバス旅行は終了した。

## 敬老祭

去る九月十五日午前十時から木村光孝責任役員総代をはじめ総代、崇敬者が参列し敬老祭を執り行つた。

宮司の祝詞奏上の際には、崇敬会会員中（御家族を含む）文京区在住の七十五歳以上の方百余名の名を奉読、その長寿と家族等の繁栄が祈願され、参列者全員の玉串拝礼が行われた。祭典後、拝殿前にて記念写真を一同そろつて撮影し、記念品をお渡しして散会した。



敬老祭

## 富坂二丁目祭り

小石川大神宮の拝殿には大小二基の大変立派な神輿が安置されており、実はこの神輿は町会の神輿で神社で預かっているのである。

本年もこの神輿が活躍する季節がやつてきた。

町内行事の一つ子供みこし祭りを九月二十日と二一日にわたつて催されたのである。

開催の前日より町会役員を中心斎場となる境内にテント設営や必要物資の搬入などが行われ、当日は準備万端。少々雨天が懸念されるも、午前十一時恙無く出御祭を斎行、御神靈を神輿へ奉遷し、出発は今か今かと佐佐木ビル入口まで神輿は移された。

神輿と共に山車もあり、山車は一足先に町内を巡回太鼓の音と町内の子供たちの元気あふれる声が響いた。

ついに午後二時、大小二基のうち子供たちで担ぐ「子供神輿」と呼ばれる小さい一基が発御、山車を先頭に子供たちの力によつて町内を練り歩いた。

神社に戻つて神輿を仮安置したあと、ご褒美のお菓子が子供たち



富坂二丁目祭り

午後五時からは大人で担ぐ「大人神輿」が発御、周辺の町会からも応援が駆けつけ、盛大な練り歩きを開始した。

ここで小石川を飛び出し、例年にない中央大学後楽園キャンパスの構内へ渡御があり、中央大学の学徒・学舎へ御神靈の御恵をお分けました。もちろんこれは事前に申しこれを行ひ認可いただいていることである。

そして大人神輿は六角坂や、富坂をぐんぐん練り歩き、神社に戻り、仮安置につき初日の日程を終えた。翌日、子供神輿と山車が文京区役所前、午後と巡行し、最後に再度他

町会の御協力も得て大人神輿が力強く町内を一回り、盛大裡に斎場に安置され、還御祭を斎行、御神社と結びついた鎮座地の活力はそのまま御神靈の活力に還元される。

また御神靈の活力は地域の人々へ御加護・お恵みとしてお分かれられる。

両者を密につなぐ富坂二丁目祭礼の末永い存続と発展を祈念したい。

小石川大神宮公式HP <http://www.koishikawadaijingu.jp/>

◆ 交通案内  
東京メトロ丸ノ内線「後楽園駅」徒歩四分  
都営地下鉄三田線・大江戸線「春日駅」徒歩五分  
都バス「富坂二丁目」バス停徒步二分  
東京メトロ南北線「後楽園駅」徒歩五分  
東京ドーム(ピッグエック)  
東京ドームシティ  
ラクーア  
文京シビックセンター・文京シビックホール  
文京区役所  
都営大江戸線「かすが」  
都営三田線「こうらくえん」  
出光  
白山通り  
河合塾  
● 紅屋印刷  
春日通り  
東京メトロ丸ノ内線「こうらくえん」  
中央大学理工学部  
戰没者堂  
磯川公園  
後楽園  
東京ドーム(ピッグエック)  
東京メトロ南北線「後楽園駅」徒歩五分  
都営地下鉄三田線・大江戸線「春日駅」徒歩五分  
都バス「富坂二丁目」バス停徒步二分